

避難所開設手引書

南海トラフ巨大地震が発生した場合、日進市では最大震度6弱（一部の地域では6強）の揺れが予測されています。また、家屋の倒壊や火災発生、ライフラインの寸断などによって、自宅での生活が困難となり、避難所での生活を余儀なくされる場合もあります。避難所は、行政と地域住民が協働して開設します。この手引書では、発災後、地域で起こる様々な問題にみんなで立ち向かい、早く安全に避難生活を始められるよう、避難所開設までの手順を説明します。

震度6弱・6強への備え

6弱



【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強



【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

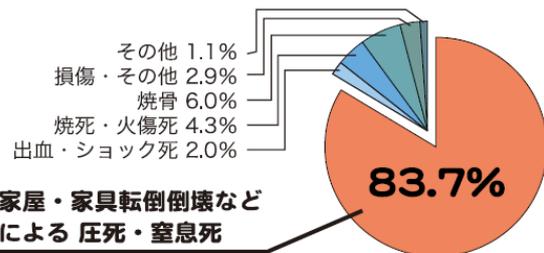
①家具転倒防止

家具の転倒防止で多くの命が助かる



1995年阪神・淡路大震災
(写真提供：和田幹二氏)

大切な命を守るためには「安全な住まい」にすることが一番。家の耐震診断・耐震補強や、家具・家電の転倒防止、ガラスの飛散防止、火災の備え（電気・ガス・石油機器等の出火防止）などの対策をしましょう。



阪神・淡路大震災における死因 資料提供：兵庫県警察本部

②住民参加の避難所運営

「住民主体」の避難所運営が災害関連死を防ぐ



2016年熊本地震

「災害関連死」の多くは、長期化する避難生活が引き金になって発生しています。避難生活で大切な命と健康を守るためには、地域・行政・施設管理者が互いに目配り気配りを働かせ、協力して環境整備や運営に関わるのが重要です。



小中学校に設置する拠点避難所は、行政と地域住民が協働して開設します。発災初日から 24 時間を目安に、最低限の生活環境を整えるために必要な優先項目を、下記の手順に沿って進めてください。3 日以上避難所運営が見込まれる場合、発災後 24 時間以降で落ち着いてきたら、正式に『避難所運営委員会』を立ち上げ、避難所運営の体制を整えます。(避難所は、主に体育館となります。)

①鍵を開ける

この時、必ず防災倉庫から『指示書 (※)』を取り出しましょう！



質問) 避難所の鍵は誰が開けるの？

回答) 避難所となる体育館の鍵は、方面担当職員（市職員）や施設管理者（学校教職員）が開錠します。

★方面担当職員や施設管理者が破損状況を目視で確認してから立ち入りが可能となります。なお、体育館内は外の汚れや感染症等を持ち込まないよう【土足厳禁】となります。
★安全の確認が終わるまで、校庭や体育館前などで待機しましょう。

※『指示書』は紙ファイルにまとめて、防災倉庫内の各係の避難所開設セットに入れています。



②人を集める

まず運営本部係を立ち上げ、運営本部係のリーダーを決めましょう！



質問) メンバーは何人ぐらい、どうやって集めればいい？

回答) 大体 20 名程度を目安に集めましょう。できれば、男女の比率が同じになるとベストです。体力がある人、地域に詳しい人、特殊技術（看護師・介護士・ライフラインに関わる技術者・建築士・大工など）のある人などを優先しながら、順次避難してくる方に、協力要請をしましょう。



③運営本部係のリーダーは各係に指示書を渡す

各係リーダー、サブリーダーを決めましょう！



質問) 各係のリーダーやサブリーダーは何をやるの？

回答) 全ての責任を負うものではありません。方面担当職員や施設管理者と一緒に、各係内の役割分担や、作業の進捗状況の全体把握、個別の困り事への対応などを行います。「運営本部係」・「受付係」・「誘導係」・「トイレ係」・「救護係」・「物資係」を置き、それぞれにリーダー1名、サブリーダー2名（男女1名ずつが好ましい）を決めましょう。各係最低3名は人員を確保しましょう。



④係ごとに防災倉庫へ物品を取りに行く

防災倉庫に入っている備蓄品一覧は、倉庫扉の内側に掲示しています！



質問) 防災倉庫にはどんなものが入っているの？

回答) 防災倉庫には下記のものが入っています。
各係の指示書／名簿／筆記用具／仮設トイレ／毛布／敷きマット／パーティション／発電機／コミュニケーションボード／食糧・水等

★リヤカーなど、人命救助に役立つセットもあるので、必要に応じて「救助チーム」をつくって活用しましょう。



⑤係ごと『指示書』に沿って準備開始・被災者受け入れ

人手不足の時は避難者にも手伝ってもらいましょう！



質問) 指示書って何？どんなことが書いてあるの？

回答) 指示書には、係ごとの作業手順や必要な道具が書いてあり、初めて見ても、係を運営するために必要な最低限の準備を進めることができるようになっています。

<避難所運営本部組織図>

①避難所運営本部係



② 誘導係

③ 受付係

④ 物資係

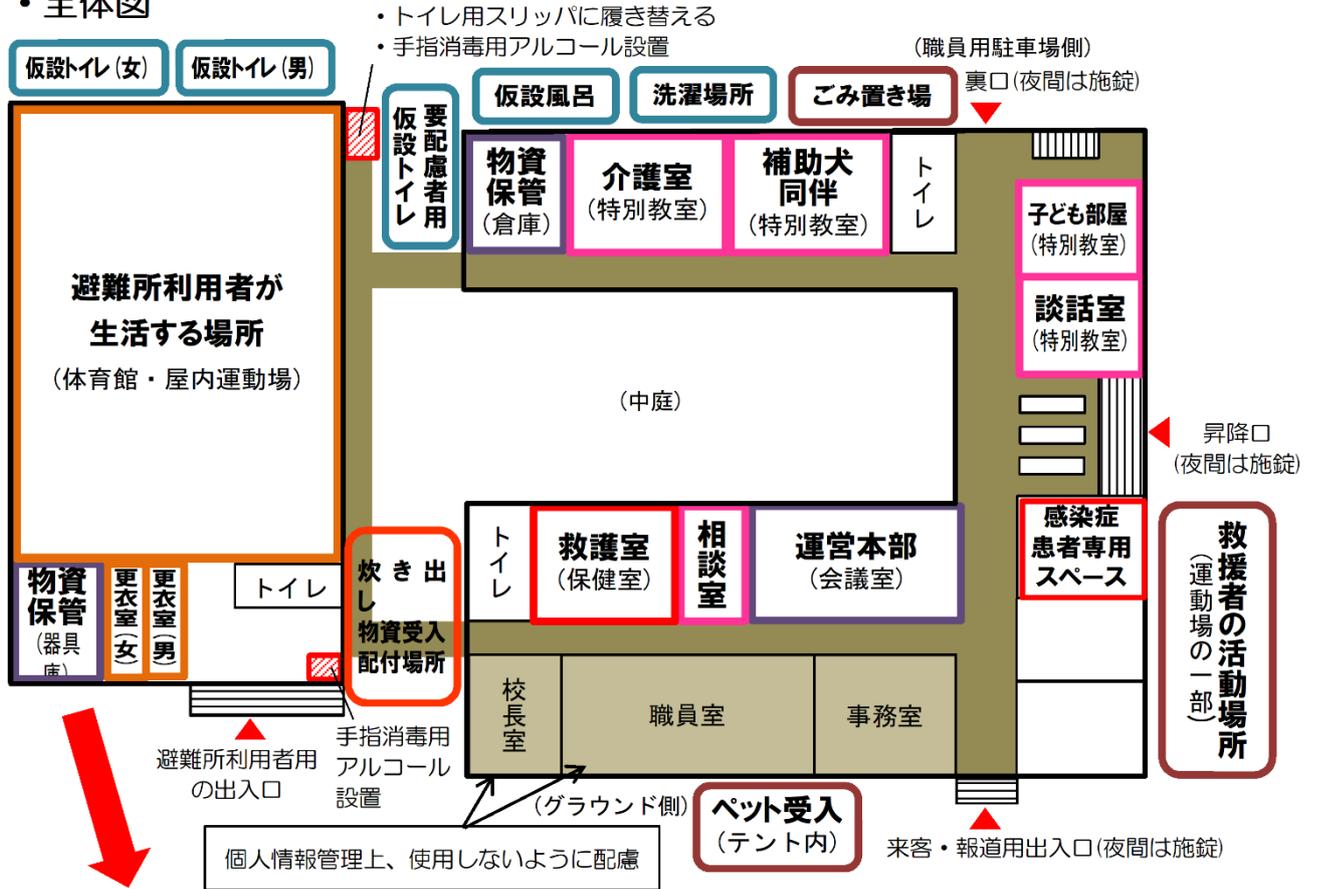
⑤ トイレ係

⑥ 救護係

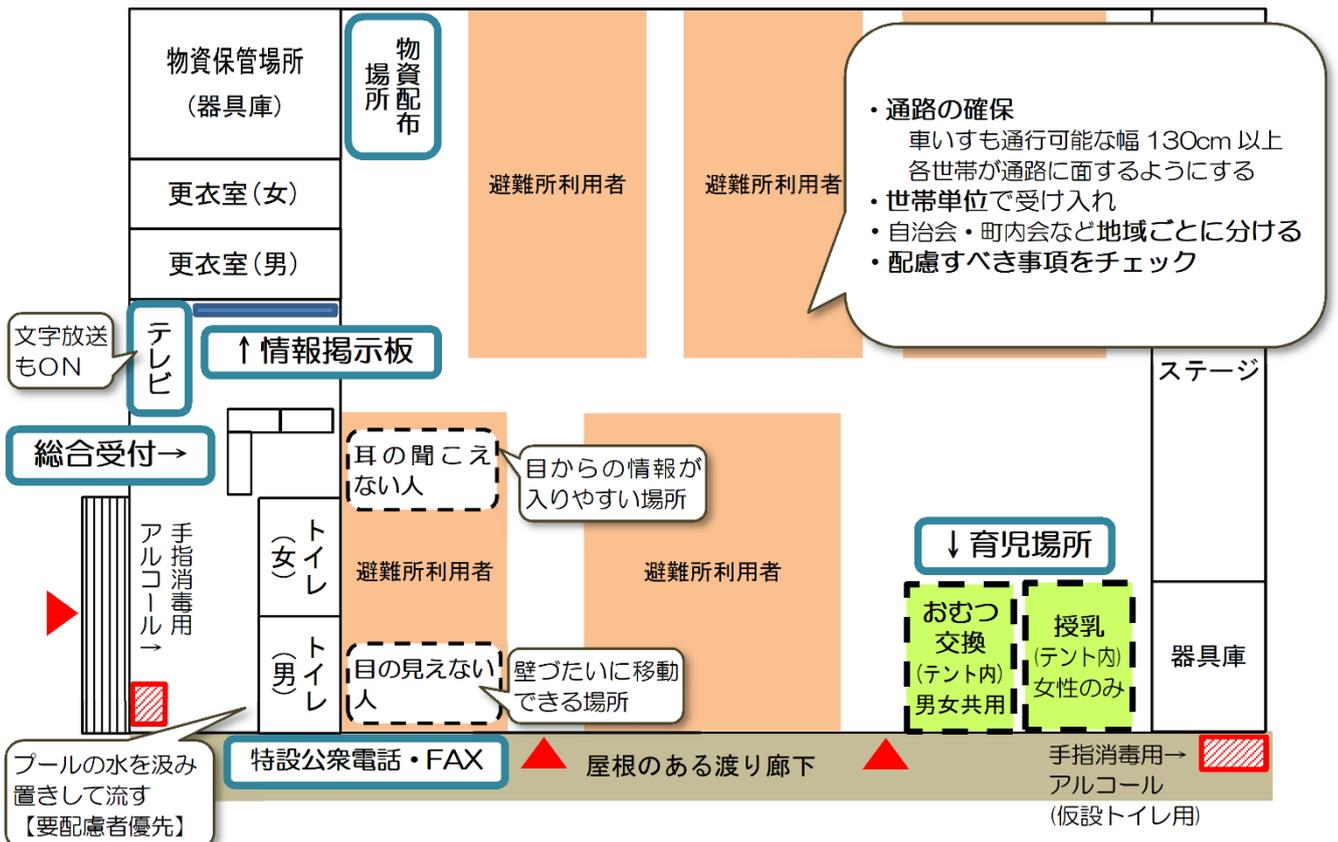
避難所の開設 レイアウト例 (学校などの場合)

市職員、施設管理者、地域住民の3者で、下のレイアウト図を参考に、災害時の施設の使い方を確認し、環境整備に取り組みましょう。

・全体図



・避難所利用者が生活する場所 (体育館・屋内運動場)



過去の被災地で実際に設置したスペースや物の参考事例



これ以外にも、感染症、乳幼児、子ども学習、女性洗濯物干し、女性専用物資、炊き出し、ペットなどの専用スペースが必要です。出来るかぎり早く設置しましょう。

避難施設の備品や防災倉庫の中身を確認しておこう！

災害発生直後は物資が不足します。避難所開設時は、避難施設や防災倉庫にあるものを最大限に工夫して使用しましょう。そのためにも、日頃から自主防災組織を始めとした地域、施設管理者、市との間で、使えるスペース・備品について、確認・意見共有をしておくことが大切です。

運営本部係

主な役割

居住場所の整備、全体のとりまとめ

- リーダー：
- サブリーダー：
- メンバー：

受付係

主な役割

避難者名簿の作成・管理

- リーダー：
- サブリーダー：
- メンバー：

物資係

主な役割

生活物資の受け取り・仕分け・配給

- リーダー：
- サブリーダー：
- メンバー：

救護係

主な役割

負傷者対応や要配慮者への対応・相談

- リーダー：
- サブリーダー：
- メンバー：

トイレ係

主な役割

仮設トイレ・手洗い場の設置、トイレ
の衛生管理全般

- リーダー：
- サブリーダー：
- メンバー：

誘導係

主な役割

駐車場の指示・誘導

- リーダー：
- サブリーダー：
- メンバー：

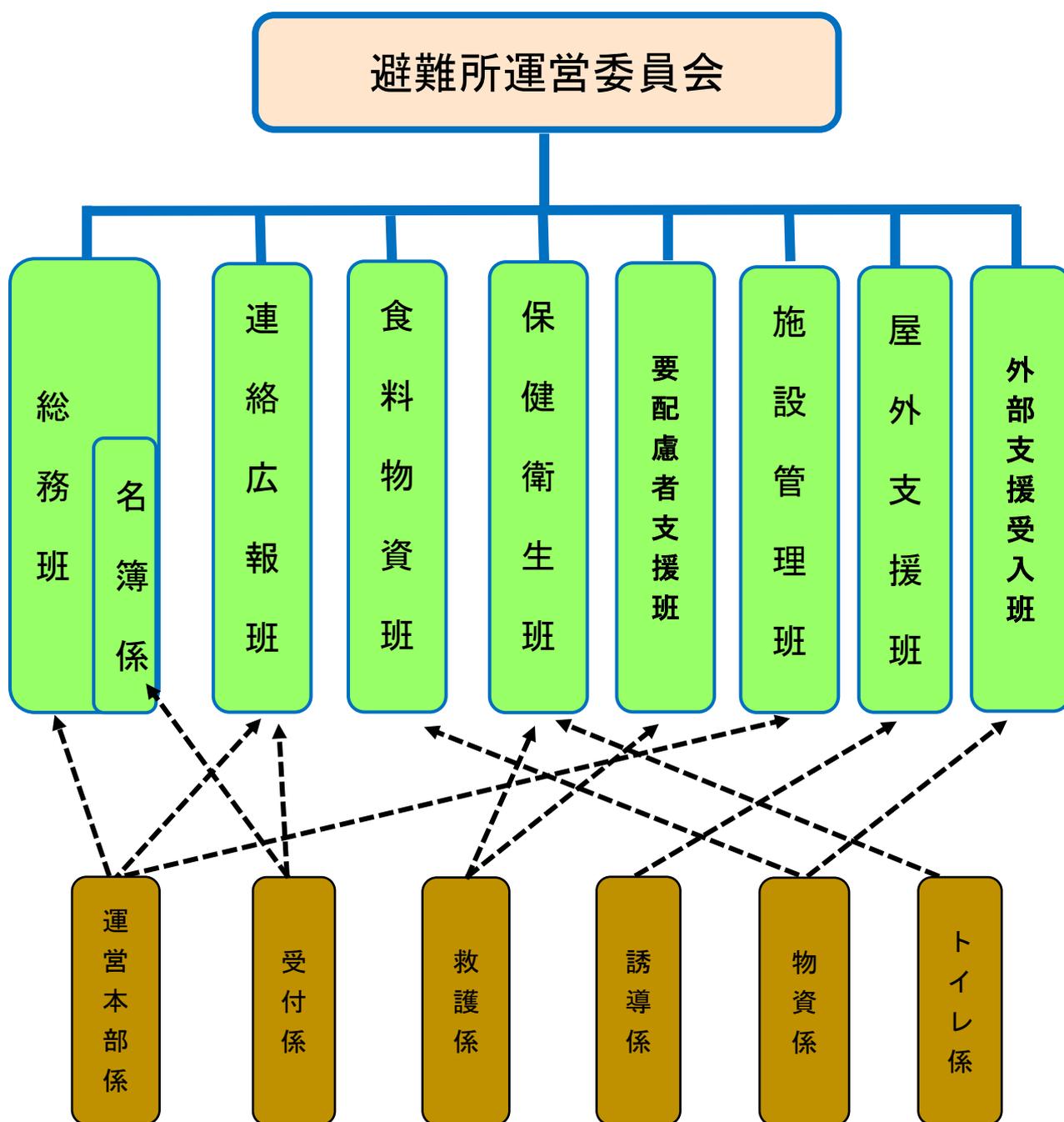
●開設後3日～7日をめどに『避難所運営委員会』の立ち上げ

避難所運営委員会は、①市職員、②施設管理者（教職員）、③避難者（地域住民）各2名程度で構成します。（③は区長、自治会長、自主防災組織のメンバーが望ましいですが、いない場合には避難者の中から選出します。）

運営委員は、避難所の運営にあたり、避難所運営本部を6つの係から必要に応じ、「総務班・（名簿係）」「連絡広報班」「食料・物資班」「保健・衛生班」「要配慮者支援班」「施設管理班」「屋外支援班」「外部支援受入班」の8つの班に編成し直します。

避難所運営はそれまでと同様、協力して行います。避難者のうち動ける人は、積極的に各班の活動に協力しましょう。

＜避難所運営委員会組織図＞



居住者の組づくりと役割分担

避難所の運営は避難者みんなで行いましょう。そのために、少し落ち着いてからでもよいので、体育館を区割りしたり、教室等の個室にいる方々を組分けして、組長を決め、さらに組ごとに以下の4つの係を決めましょう。特定の人に負担がかからないよう、お互いに協力しましょう。

係	仕事内容（例）
組長	<ul style="list-style-type: none"> ・組長ミーティングへの出席 ★ミーティングの内容（参考例） <ol style="list-style-type: none"> ①避難生活や運営に関する組員の困りごとや相談 ②生活ルールの提案や改善についての相談 ③行政の生活再建に関する支援情報の提供 ④イベントや個別のお手伝いなど、ボランティアからの情報提供や相談など ・組員への情報周知、困りごとの収集
食事係	<ul style="list-style-type: none"> ・配食の希望のとりまとめ（人数、おかゆ・アレルギー対応などの把握） ・配膳の手伝い（配膳のよびかけ、手・指の消毒など） ・その他、食事に関すること
ゴミ係	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ箱周りの掃除 ・集積場へのゴミ捨て
清掃係	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯ごとの居住スペースを除き、共有部分（通路、食事スペースなど）などの掃除 ・仮設トイレおよび、施設内にあるトイレの掃除 ・施設周辺のゴミ拾い
物資・健康係	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良者のチェックと声かけ ・班内の人たちへの物資提供（下着・衣類・靴のサイズチェック、個別に必要な物品の把握、物資倉庫の整理手伝いなど）に関する調整など

コラム

動ける人は進んで動こう！

～2011年3月11日東日本大震災 宮城県七ヶ浜町・被災者からのメッセージ～



星 勝明氏（当時59歳）

元・宮城県七ヶ浜町国際村事務局長

とにかくこの避難所で、**災害関連死を出さない**ことを一番に考えました。災害発生後、1時間で250名避難してきたので、行方不明者対応や食事提供を考えて、**すぐに入居者名簿を作成**しました。また、地区ごとに区割りをして小グループを作り、グループごとに係を決め、**みんなが主体的に運営に関わる機運作り**に努めました。

寝たきりや障がい者、乳幼児の母子、感染症、受験生などには、**それぞれの事情に応じて利用できる特別なスペース**も用意しました。